

今、学校で勉強していることはすべて上級学校で役に立ち、仕事や社会活動に役に立つ
—今の学年での勉強は一生に一回しかできない—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：いろいろな学校で講演をしているそうですね。

A：はい。栃木県や群馬県、東京の経済同友会を通して、中学校や高校、大学や大学院、教育委員会などから講師の依頼を頂くことが毎月何回かあります。

Q：どのようなことをお話しているのですか。

A：働くとは何か。働くことの意味とは何か。仕事の楽しさ、厳しさとは何か。企業や社会で求められる能力とは何か。学生時代に学ばなければならないこと、身に着けておいたほうがよいことは何か。これらが各々の学校から求められる講演の内容です。

Q：一番訴えていることは何ですか。

A：よく聞いてくださいました。次の5点です。

- (1) 今、学校で勉強していることはすべて上級学校で役に立つことばかり。社会に出てから役に立つことばかり。
- (2) 今、学校で勉強していることは一生に一回、今の学校でしかできないことばかり。
- (3) だから、本気になって、今勉強していることを今の学年でしっかりと「理解」し、すべて正確に「定着」する(身に着ける)こと。
- (4) 学校の教科書、教材、ノートは決して捨てないこと。一生身の周りに置き、折に触れて繰り返し勉強し続けること。
- (5) 大学や短期大学、専門学校での勉強、企業などすべての職場での仕事や社会的活動は、すべて小学校、中学校、高校での勉強の基礎の上に成り立っていること。現代は知識社会なので、特に高校での全教科の勉強は最重要であること。

Q：エッ、今、学校で勉強している全教科はすべて役に立つのですか。

A：(1) 小学校1年生から高校3年生まで、皆様が今学校で教科として学んでいる内容は一つ残らず役に立ちます。役に立たない内容など一つもありません。

(2) なぜか。答えは簡単です。小学校から高校までの学校教育は、国民の貴重な税金で行われているからです。国民の税金で行われている学校教育の内容に、役に立たないものなど一つたりともありません。

(3) 将来の日本を担う子どもたちが、何をどの学校の何学年で勉強すべきかは、文部科学省が国

民の英知を集めて調査・研究し尽し、学校指導要領として決定したものです。不要なものなど一つもありません。

Q：今、学校で勉強していることはどこで役に立つのですか。

A：上級学校ですべて役に立ちます。

- (1)例えば、小学校で勉強したことは中学校ですべて役に立ちます。
- (2)中学校で勉強したことは高校ですべて役に立ちます。
- (3)高校で勉強したことは大学、短期大学、専門学校、専修学校、企業などすべての職場、社会的活動ですべて役に立ちます。また、豊かで充実した人生を送る上で一生役に立ちます。
- (4)大学などで勉強したことは大学院や社会ですべて役に立ちます。役に立たないことなど一つもありません。

Q：学校での勉強はすべて役に立つのですね。驚きました。

A：(1)もう一つ大切なことがあります。学校の今の学年で勉強していることは、別の学年でもう一度勉強することはありません。学校では今の学年でしか勉強できません。

(2)例えば、高校2年生で勉強している教科の一つ一つの内容は、学校では高校2年生でしか勉強することがありません。つまり、今勉強していることは一生で一回こっきりだということです。

(3)各教科のある内容について学校で授業を聞くのは一生に一回、この瞬間だけです。だからこそ、先生は全精力を傾けて授業の準備をし、熱心に、また、わかりやすく教科書の内容を授業で説明し、質問にも丁寧、親切にお答えくださるのです。

Q：確認テストや定期試験、実力試験は何のためにあるのですか。

A：(1)学校で勉強した各教科の内容が正確に「理解」できているか、正確に「定着」している(身に着いている)かを見きわめるためのものです。

(2)各テストでよい点数を取るためには、授業で用いた教科書や教材、問題集、授業ノートなどをスミからスミまでもう一度「理解」し直し、スミからスミまですべて覚え、「定着」させなければなりません。

(3)テストを活用してそのような勉強を自主的に行い、今の学年で学んだことをすべて「理解」し、「定着」させることはとても大切です。

Q：入学試験は何のためにあるのですか。

A：(1)その学校に入学する前に、前の学校で学んだことをすべて正確に「理解」し、「定着」しているかを確認するのが入学試験です。

(2)十分に勉強してこなかった人を入学させると、その学校での勉強に耐えられることが少ないので、入学試験は自然と少し難しめになります。

(3)受験生は、自分が希望する学校に入学を果たすために、今の学校で勉強した全教科の内容を教科書を中心にスミからスミまで一つ残らず正確に「理解」し、「定着」させることが求められます。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1)このように学校での勉強は全教科ともすべて大切な内容ばかりですので、学校を卒業しても教科書や教材、授業中のノートは絶対に処分しないこと。

(2)上級学校に進学後も、また、仕事や社会的活動をするときにも、さらには豊かで充実した人生を送る上でも、死ぬ前の日まで学校で勉強した教科書やノートなどを繰り返し学び続けること。

(3)「教養」は、このようにすれば誰でも身に着くものです。学校での勉強こそが人生の基礎です。

(4)このようなことをできる限りわかりやすくお話させて頂いております。御参考まで。

2016年9月19日(月)記

筆者プロフィール

- ・開倫塾 塾長
- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・学校法人 有朋学園、有朋高等学院 理事長 (福島市)
- ・公益社団法人 経済同友会 幹事 (東京)
- ・公益社団法人 栃木県経済同友会 幹事
- ・群馬県経済同友会 会員
- ・開倫ユネスコ協会 会長